

# 新冠百話

新冠にまつわるお話しを集めた

## 第八十六話

### 「判官館のタブ蔵じいさん

(歴史と伝説)  
(要約文)

新冠川の河口に「判官館」と呼ばれる建物があった。ここには、松前藩時代の代官が巡視するための宿があった。この館（やかた）には、錠をかけて大切にしている代官様の寝室がある。大切な場所であるため、タブ蔵じいさんという番人を置いて厳重にしていた。

若者である良作は、この寝室を一目見たものだとか好奇心にかられた。彼は上等なドブロクを持参して爺さんの機嫌をとることにした。口に自信があつた良作は、興味を引く話を重ねて爺さんの心をほぐしていった。すると、とうとう心を許して寝室の錠前を開けてくれた。

しかし、薄暗い室内にはカビの匂いが立ち込めていて、陰気くさいことこの上なかった。一見してぜいたく品と思われる調度品が昔のままに置かれていたが、ずっと開けていなかったためか室内の湿気と雨もりで見えるも無惨な有さまとなっていたのだ。それは、豪華な牡丹が色あせてしおれてしまったような物哀れを感じさせた。彼の好奇心

はこれですっかりペシャンコとなつてしまった。

番人のタブ蔵爺さんは、この荒廃たる有り様にたいそう驚くとともに、涙を流して悲しんだ。年に一度の虫干しに建物を開ける以外は閉じたままであつたのだから、荒れるのも当然であつた。

ところが今度は、良作がひどく落ち込んだタブ蔵爺さんをなぐさめるのに骨を折らねばならなかった。代官時代をなつかしがつて愚痴を並べるタブ蔵爺さんは、ミイラの番をしなからミイラのような話だと、良作はいたく同情したのだつた。

○判官館には江戸時代の会所があつた。その本陣は豪華な建築であつた。良作は、明治時代に砂金掘りのため新冠に入った者で、爺さんが言う代官時代というのは江戸時代のことである。



会所の館があつたという判官館に面した海岸の風景

## ～救うのは 一番近くの あなたの手～

○呼吸や心臓が止まったら…心肺蘇生・AED（自動体外式除細動器）  
○のどにものが詰まったら…気道異物の除去  
○ケガや病気におそわれたら…応急手当  
気軽に講習会を受講しましょう！まずは消防へ連絡 → 47-2666  
消防署新冠支署

### 火災・救急出動状況 ( ) かつこ内は前年同期

区 分	火災件数	救急件数	災害出動件数
1 月	0 件 (1 件)	40 件 (36 件)	2 件 (1 件)
7 年 1 ～ 12 月	4 件 (4 件)	303 件 (310 件)	16 件 (18 件)
交通事故発生状況 ( ) かつこ内は前年同期			
区 分	発生件数	死 者	傷 者
1 月	0 件 (0 件)	0 人 (0 人)	0 件 (0 件)
7 年 1 ～ 12 月	5 件 (6 件)	0 人 (0 人)	6 人 (9 人)

## 人のうごき

(令和 8 年 1 月末現在)

人 口 4,942 人 (前月比 △ 1 人)  
男 2,505 人 (前月比 + 6 人)  
女 2,437 人 (前月比 △ 7 人)  
世 帯 2,808 世帯 (前月比 ± 0 世帯)

## 戸 籍 の 窓

12 月 6 日～1 月 20 日までの届出分 (敬称略)

### ●お誕生おめでとうございます

田 口 <sup>てんよう</sup>天 陽 (伸也 <sup>ぱぱ</sup>綾 香 <sup>ママ</sup>) 北星町  
細 川 <sup>えま</sup>笑 希 (秀一 映里香) 西泊津

### ●おくやみ申し上げます

中 倉 晴 一 8 1 歳 東 町  
三 浦 聖 6 8 歳 緑 丘  
上 田 義 信 9 6 歳 本 町  
袴 田 千 恵 子 7 9 歳 中央町  
工 藤 和 己 8 3 歳 北星町  
瀧 瀬 正 子 8 2 歳 東 町  
瀧 瀬 久 子 8 3 歳 本 町  
小 笠 原 静 江 9 6 歳 共 栄

### ●お問い合わせ先

町民生活課町民生活グループ住民係  
☎ 0146・47・2112